

第25回 介護教室のご案内

『本当に役立つ リハビリ専門職とは』

～高齢者ケア 多職種の間わり方～

高齢者ケアにおいて、本人・家族・医師やケアマネジャー・介護職・看護師・リハビリ専門職など多くの職種が連携していく必要があります。今回は、リハビリ専門職の方にとってはどうすれば連携がうまくいくのかまた、関わる方にとってはどうやってリハビリ専門職を活用するとケアに活かせるかという点でヒントが得られるのではないのでしょうか。ぜひ、ご参加ください！



日時 平成30年11月17日（土）
14：00～17：00

会場 熊本保健科学大学
1号館 1201S講義室

対象 どなたでも 《定員50名》

参加費 1000円

講師 高口 光子氏

(たかぐちみつこ)

理学療法士・介護支援専門員・介護福祉士 現：介護アドバイザー
湖山医療福祉グループ 医療法人財団 百葉の会 人材開発室部長
特別養護老人ホーム マナーハウス麻溝台 教育担当部長

高知医療学院を卒業後、理学療法士として福岡の病院に勤務するも、老人医療の現実と矛盾を知る。より生活に密着した介護を求め、特養ホームに介護職として勤務。介護部長、デイサービスセンター長、在宅部長を歴任した後、2002年4月に静岡の医療法人財団百葉の会、法人事務局企画教育推進室室長及び生活リハビリ推進室室長を兼務する傍ら介護アドバイザーとして全国を飛び回る毎日を送った。2006年に老健「鶴舞乃城」の立ち上げに携わり、翌年4月に看介護部長となる。2012年5月には新規の老健「星のしずく」の立ち上げに携わり看介護部長を兼任する。現場を守りながら若い運営スタッフやリーダー育成に取り組む一方で、講演、執筆活動、フェイスブック、NHKに出演し、現場からの等身大の発言・提案で現場を変革させようと精力的に日々を送る。これまでの現場からの学びの集大成として、『介護施設で死ぬということ（講談社）』を、また、現場を知らない人々も関係者の方々にも「今の介護現場」を知ってもらいたいという思いから、『介護の毒は孤独（コドク）です（日総研）』を刊行した。

申込先 ※裏面にあります。

